

浅海域の生態系（4）：伊勢・三河湾と大阪湾の漁業の現状

2025 年度も 2024 年度に引き続き、浅海域の物質循環について改めて見直す機会として
います。本年度第 2 回 RACES セミナーでは、大阪府立環境農林水産総合研究所の山中
主任研究員をお招きし、大阪湾の漁獲の変遷とワカメ養殖における温暖化対策について、
名城大学の鈴木輝明特任教授をお迎えして、伊勢・三河湾における貧栄養と漁業の問題に
ついてご講演いただき、漁業の現状とそれを取り巻く近年の変化と対策について学び直す
機会としたいと思います。気軽にご質問いただける機会ですので、興味・関心をお持ちの
方は、ぜひご参加くださいますようお願いいたします。

- テー マ 浅海域の生態系（4）：伊勢・三河湾と大阪湾の漁業の現状
- 主 催 一般社団法人 生態系工学研究会（RACES）
環境研究総合推進費戦略プロジェクト S-23-3
- 日 時 2025 年 9 月 21 日（土）14:00 ～ 16:50
- 場 所 大阪公立大学 I-site なんば 2F C1
(大阪市浪速区敷津東 2 丁目 1 番 41 号 南海なんば第 1 ビル 2 階)
Zoom によるオンラインのハイブリッド形式
- 申 込 下記の登録フォームにてお申し込みください。
<https://forms.gle/dSvFu4PbRy22JgJk6>
- お問合せ 生態系工学研究会 事務局 e-mail: office@races.jp
- プログラム



14:00～14:05 趣旨説明

14:05～15:15 講演「温暖化による大阪湾の漁獲物の変化と海藻養殖における対策技術」

山中 智之 様（大阪立環境農林水産総合研究所 水産研究部 主任研究員）

【講演要旨】大阪湾の水温は最近の 50 年間で約 1℃上昇し、獲れる魚種も変化している。また、海藻は「ブルーカーボン」としてその重要性が見直されている。大阪湾でのワカメ養殖も温暖化により困難さが増しているが、「フリー配偶体」など温暖化に対応する新しい技術の導入が進んでいる。本講演では、大阪湾の漁獲物の変化、海藻養殖とその温暖化対策技術について紹介する。

15:25～16:35 講演「伊勢・三河湾の貧栄養化と漁業について（イカナゴを例として）」

鈴木 輝明 様（名城大学大学院総合学術研究科 特任教授）

【講演要旨】伊勢・三河湾では富栄養化対策として 1980 年から COD、2002 年から TN・TP の水質総量規制を実施している。この規制により TN・TP 濃度は大幅に低下し、環境基準値を下回るまでになった。しかし実際には COD は改善されず、貧酸素水塊は拡大傾向にあるため、TN・TP 削減の見直しが議論されている。この環境管理上の問題と近年の漁業生産力低下との関連性、いわゆる「貧栄養化」問題について私見を述べたい。

16:35～16:50 ディスカッション



【I-site なんば 会場案内】

・南海電鉄ご利用の場合

●南海本線 「なんば」駅 中央出口下車南へ約 800m、徒歩約 12 分

●南海高野線 「今宮戎」駅 下車北へ約 420m 徒歩約 6 分

・大阪メトロご利用の場合

●御堂筋線 「なんば」駅 5 号出口下車南へ 1000m、徒歩約 15 分

●御堂筋線・四つ橋線 「大国町」駅 1 番出口下車東へ約 450m、徒歩約 7 分

●堺筋線 「恵美須町」駅 1-B 出口下車西へ約 450m、徒歩約 7 分

（ご注意）

建物北側の大学専用入口からお入りください。本施設には、駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関もしくは周辺のコインパーキングをご利用ください。

URL : <https://www.omu.ac.jp/isite/access/>